

[I C T活用教育のサポート体制]

事 務 局 紹 介

事務局紹介

本学では、学習活動支援と教育活動支援が不可分であるとの認識に立ち、学生のための授業づくりを目指して教育・学習活動支援センターを開設しています。本取組は、このセンターの中にICT活用教育推進部を設けて母体とし、共通科目運営センター運営委員会並びに総合情報センターとの協力体制の下、推進しています。

このICT活用教育推進部のシステム活用推進グループでは、教育活動支援として本取組の実施科目の教員、TA（Teaching Assistant）、SA（Student Assistant）をサポートし、また、学習活動支援として履修学生等をサポートするため、ICT活用推進部事務局を開設しました。

ICT活用推進部事務局では、教員、学生が自由に利用できるPCを設置しているほか、気軽にミーティングや相談が行えるカウンターテーブル、そして専任事務職員が常駐して教員やTA、SA、学生の質問や相談に対応しています。



明るい室内には簡単なミーティング等が気軽に行えるよう配慮されています。



本学のコンピュータ教室と同じデスクトップPCが3台用意され、質問や相談にいつでも応じられます。

[学 外 調 査]

I C T活用教育の学外調査・発表論文

(一 覧)

学外調査一覧

- (1) 2007年10月17日(水)
NIME国際シンポジウム2007
「高等教育における教員のICT活用による教育力向上に向けて」
参加者:山中 馨 教授 (システム活用推進グループ グループ長)
高木 正則 助教 (システム開発グループ)

- (2) 2007年10月20日(土)
教育システム情報学会2007年度第3回研究会(名古屋大学)
参加者:高木 正則 助教 (システム開発グループ)

- (3) 2007年11月5、6日(月、火)
15th International Conference on Computers in Education (ICCE2007)、広島県
参加者:高木 正則 助教 (システム開発グループ)

- (4) 2007年12月22日(土)
日本教育工学会 研究会(熊本大学)
参加者:山中 馨 教授 (システム活用推進グループ グループ長)
望月 雅光 准教授 (システム活用推進グループ)

- (5) 2008年1月25日(金)
青山学院大学 eラーニング人材育成研究センター(eLPCO)視察
参加者:勅使河原 可海 教授 (ICT活用教育推進部 部門長)
山中 馨 教授 (システム活用推進グループ グループ長)
望月 雅光 准教授 (システム活用推進グループ)
高木 正則 助教 (システム開発グループ)

- (6) 2008年1月30日(水)
NIMEセミナー「ICT活用による教員の教育力向上のためのFD実践」
参加者:山中 馨 教授 (システム活用推進グループ グループ長)

- (7) 2008年1月25、26日(月、火)
徳島大学 uラーニングセンター視察
参加者: 勅使河原 可海 教授 (ICT活用教育推進部 部門長)
山中 馨 教授 (システム活用推進グループ グループ長)
池田 秀彦 教授 (システム活用推進グループ)
望月 雅光 准教授 (システム活用推進グループ)
高木 正則 助教 (システム開発グループ)
- (8) 2008年2月15、16日(金、土)
九州工業大学 eラーニング事業推進室視察
参加者: 望月 雅光 准教授 (システム活用推進グループ)
- (9) 2008年3月3、4日(月、火)
NIME「eラーニングセミナー(第2回)」
参加者: 望月 雅光 准教授 (システム活用推進グループ)
金子 徹哉 (事務局からオンライン参加)
- (10) 2008年3月10日(月)
NIMEセミナー「ICT活用教育入門」
参加者: 尾崎 秀夫 講師 (システム活用推進グループ)
- (11) 2008年3月13日(木)
三重大学 現代GPプログラムmoodle視察
参加者: 山中 馨 教授 (システム活用推進グループ グループ長)
池田 秀彦 教授 (システム活用推進グループ)
望月 雅光 准教授 (システム活用推進グループ)
高木 正則 助教 (システム開発グループ)
金子 徹哉 (事務局)

発表論文一覧

(1) 2007年7月4日～6日

「マルチメディア、分散、協調とモバイル(DICOMO2007)シンポジウム」

高木 正則, 光國 正明, 勅使河原 可海

異なる学習集団の学生が協調的に作問可能なe-Learningシステム

情報処理学会マルチメディア・分散・協調とモバイル(DICOMO2007)シンポジウム, 同シンポジウム論文集, pp.1034-1039, 2007.

(<http://www.dicomo.org/2007/>)

(2) 2007年8月26日～28日

「情報処理学会情報教育シンポジウム(SSS2007)」

高木正則, 勅使河原可海

異なる学習集団の学生が協調的に作問可能なe-Learningシステムの開発と評価

情報処理学会情報教育シンポジウム(SSS2007), 同シンポジウム論文集, pp.187-194, 2007.

(<http://ce.eplang.jp/index.php?SSS2007>)

(3) 2007年9月12日～14日

「教育システム情報学会第32回全国大会」

星野大輔, 高木正則, 勅使河原可海

学生が作成した問題の完成度の向上を促進するグループレビューナビゲーション機能の開発と評価

教育システム情報学会第32回全国大会, 同大会論文集, pp.216-217, 2007.

(<http://security.cs.shinshu-u.ac.jp/JSiSE2007/>)

(4) 2007年9月22日～24日

「日本教育工学会第23回全国大会」

高木正則, 勅使河原可海

WBTシステムを利用した作問による学習効果の検証

日本教育工学会第23回全国大会, 同大会論文集, pp.647-648, 2007.

(<http://www.jset.gr.jp/taikai23/index.html>)

(5)2008年3月13日～15日

「情報処理学会第70回全国大会」

高木輝彦, 高木正則, 勅使河原可海

学生が作成した問題の類似性に基づいた自動分類方式の提案

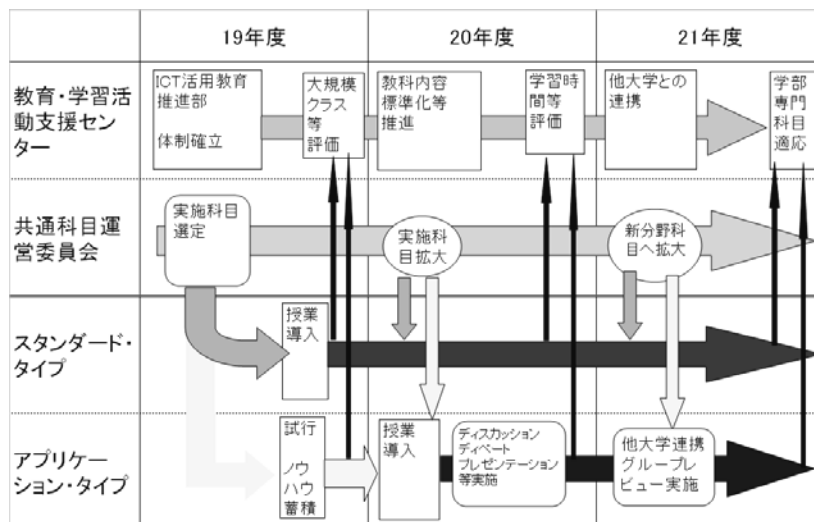
情報処理学会第70回全国大会論文集, Vol.4:pp.687-688, 2008.3

(<http://www.ipsj.or.jp/10jigyo/taikai/70kai/index.html>)

[実 施 計 画]

来 年 度 実 施 計 画

＜20年以降の実施計画＞



＜20年度＞

スタンダードタイプ授業と同様にアプリケーションタイプ授業へも本システムを導入する。前期からの導入とし実施科目数もスタンダードタイプ、アプリケーションタイプそれぞれ、30科目、10科目程度へ広げる。共通科目運営センターの実施科目選定に際しては、特に複数教員が担当する科目を選定し、教科内容の標準化を実施する。

アプリケーションタイプ授業では学生のディスカッション能力、ディベート能力等の向上実証のため授業内もしくは課外に公開で対面型ディスカッション、ディベート、プレゼンテーション等を組み合わせて実施し、サイバー空間とリアル空間との融合を図る。

「システム開発グループ」はシステム改良を進める。具体的には作成された問題を類似問題群に分類し、テスト出題時に毎回異なる問題群を動的に出題するテスト方式の構築を行う。

「システム活用推進グループ」は本システムを有効利用できる教科内容の選別基準の策定、教育方法の改善、授業外学習時間等のデータ解析を行う。また実施授業の教育内容を収録・公開し、広く学内外の利用促進に供する。

教育・学習活動支援センター主催の授業改善フォーラムを学外に向けて開催し、他大学での同様科目との連携を図る。

＜21年度＞

共通科目運営センターは新分野での科目導入を推進し、スタンダードタイプ、アプリケーションタイプとも20年度と同程度以上の科目で実施する。また、他大学との連携を図り、本システムの導入校を拡大する。その中で、学問領域の近い科目において本システムを利用した複数大学間のグループレビューを行い、他大学学生とのディスカッション等を通して多様な価値観の理解、広い視野を持たせる教育に資する。

システムの改良としては面識のない他大学の学生との人間関係の構築支援機能を開発し、単一クラス内で実施してきたグループレビューと同等もしくはそれ以上の教育効果を発揮できるシステムへと発展させる。

創価大学 平成 19 年度現代 G P 報告書

平成 20 年 6 月 発行

発行 創価大学 教育・学習活動支援センター

I C T 活用教育推進部 事務局

〒 1 9 2 - 8 5 7 7

東京都八王子市丹木町 1 - 2 3 6

T E L : 0 4 2 - 6 9 1 - 2 6 6 8

F A X : 0 4 2 - 6 9 1 - 8 1 5 8